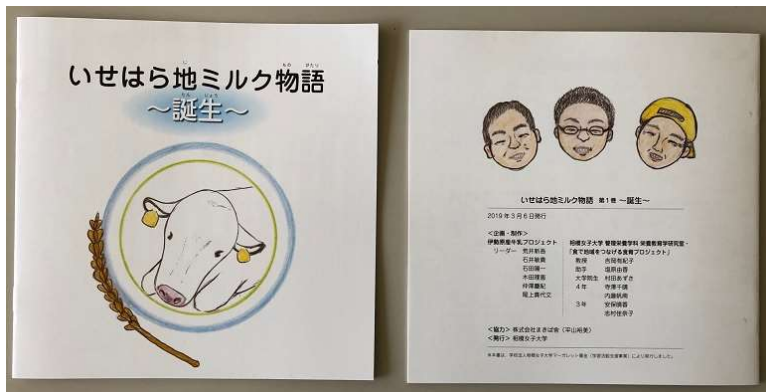


絵本「いせはら地ミルク物語～誕生～」の読み聞かせによる食育授業

昨年度1年間かけて、伊勢原産牛乳プロジェクトチーム（以下、PTとします）は、相模女子大学とのコラボレーション企画により、絵本「いせはら地ミルク物語～誕生～」を製作しました。PT酪農家、PT市民応援団、学生が作業に当たり、当所は製作支援を行い、相模女子大学の資金支援により製本化に至りました。この絵本は、酪農家が「自分たちの牛乳をみんなに飲んでもらいたい」という思いを実現するために、苦労してメーカーの協力を得て、商品を開発するサクセスストーリーになっています。



絵本は、酪農家を主人公にした「いせはら地ミルク」の開発ストーリーになっています。

授業です。牛とふれあうときの注意点や手洗いと手指の消毒について説明を受けた後、児童たちは子牛とふれあい、酪農家の荒井さんとの意見交換を行いました。「牛乳はどうして出るの?」「お母さん牛の体重はどれくらいあるの?」など素朴な疑問に対して、荒井さんがやさしく答えました。



クラスごとに授業を実施（本日の流れ、牛を見るときにの注意点などを説明）



子牛について説明する酪農家の荒井さんと学生は、「牛乳には、子牛がこんなに大きくなれる力がある。それをみんなは分けてもらっているんだよ。」と説明

この絵本を教材として活用し、令和元年9月30日に相模女子大学と伊勢原小学校の全面協力の下、PTは伊勢原小学校2年生全3クラス（84名）を対象に食育授業を行いました。小学校の配慮により、児童との対話が十分できるようにと授業は1クラスごとに行いました。

1時限目はグラウンドで子牛や搾乳疑似体験装置の「ミルタン」を使った牛とのふれあい



「ミルタン」で疑似搾乳体験する児童たちは、上手に搾ろうと探求心旺盛でした。

「ミルタン」は、上手に搾るとタンクに溜めた水道水がゴム製の乳頭から勢いよく出てきます。児童たちはどうやったら出てくるのか探求しながら熱心に搾っていました。

2時限目は、教室に戻って絵本の読み聞かせ授業です。相模女子大学の学生と絵本の主人公である酪農家の石井さんがモニターに映した絵本の読み聞かせを行いました。読み聞かせの後、酪農と牛乳にかける石井さんの想いや牛乳がみんなに届くまでにたくさんの人たちが関わっていることについて振り返りを行いました。最後に、児童と先生に「いせは

ら地ミルク」を飲んでもらい、アンケート用紙を使ったアンケートを行って授業をしめくりました。「おいしい」という声があちこちから聞かれるとともに、普段牛乳を飲めない子が「いせはら地ミルク」を全部飲み干す光景も見られました。給食の時間には、食育授業に関わったスタッフ全員（備考欄参照）が各クラスに招待され、児童と机を並べて対話しながら楽しく給食をいただきました。食事中も児童たちからは、酪農や牛に対する質問が絶えませんでした。

当所では、食育授業で学んだこと、楽しかったことが児童の家族や友達に伝わり、地域や県の酪農への理解につながるよう引き続き支援してまいります。



絵本をモニターに映しての読み聞かせ授業では、絵本の主人公である酪農家の石井さんがセリフを読み、臨場感たっぷりで児童たちは引き込まれている様子でした。



絵本の内容を振り返り、「酪農家の石井さんはどんな想いで『いせはら地ミルク』を作ったのかな」という質問に、次々と手が上がり「みんなに美味しい牛乳を飲んでもらいたいから」等積極的な発言がありました。

備考

当日の食育授業は、伊勢原産牛乳プロジェクトチーム6名（いせはら地ミルク生産酪農家2名、伊勢原市役所1名、伊勢原産牛乳プロジェクト応援団（県民）1名、当所2名）と相模女子大学8名（教授1名、大学院生1名、学生6名）合計14名で実施しました。